

優秀賞

一般建築物の部

地域と再出発した校舎

シラハマ校舎

建築主：合同会社WOULD

設計：一級建築士事務所あわデザインスタジオ

施工：株式会社コハラ建設

所在地：南房総市白浜町滝口5185-1



地元住民・移住者のプロジェクトメンバー

(撮影/岸田一輝(一級建築士事務所あわデザインスタジオ))

近年、少子高齢化や地域性による人口・世帯数の減少による空き家現象が、全国的にも大きな問題となる中、今まさに事業所、民家などだけではなく公共施設も例外ではない。

行政の財政圧迫となる施設「廃校」をどのように活用していくかを、色々な観点から校舎及び学校施設全てを含めリノベーションプロジェクトされた名称「シラハマ校舎」が本事例であります。

シラハマ校舎は、南房総市白浜町に位置し、山を背にした昔ながらの木造校舎を大小オフィス、簡易宿所、レストラン、シェアキッチンなどが平面的に計画され、グラウンドには約80㎡に区画された「農」地に、10㎡程度の小屋付きで「クラインガルテン」と称す事業が進められている。

計画の核となる学校が用途変更する事により地元企業、地域住民、都市部企業等、利用者の融合と交流が不可欠と思われるプロジェクトが実を結びつつある感で、周辺住民の方々を中心としても工夫出来ている。

校舎の改修方法もローコストにて設計され、運営する事業者も少ない負担で事業が出来る事が、このプロジェクトにはとても大切

なものと考えられ、着実に進んでいる。

南房総地域では移住者や二地域居住者が増え、様々な活動を行っている人々が増えてきているが、それらの人々の活動は独立してしまいがちであり、そこでこのシラハマ校舎の施設を利用する地域住民、地元企業、移住者の方々による活動のハブとして次第にコラボレートする事で新たな展開が生まれることを期待します。

安心で安全な運営が、利用する方々や事業者にとって第一で有る事も忘れずにそしてリノベーションに対する考えを守らなければならないと思う。

最後に、国内の空き家利用実例として全国各地域への発信になる事を期待します。

(竹江 文章)



幼稚園の遊戯室をカフェ、レストラン、シェアキッチンとして再活用



ミニ別荘付き
クラインガルテン利用者による農園

(撮影/岸田一輝(一級建築士事務所あわデザインスタジオ))